

個人企業経済調査（平成10年度）結果

平成10年度における個人企業1企業当たりの売上高及び営業利益は、前年度に比べ、製造業は増収減益、卸売・小売業、飲食店及びサービス業はいずれも減収減益で、厳しい経営となった。

1 製造業

《売上高は増加したものの営業利益は2年連続減少》

平成10年度の1企業当たりの売上高は、1206万円に対前年度比(+) 3.1% の上昇となったが、営業利益は、392万円に対前年度比(-) 3.6% と昨年度に引き続き低下した。

これは、売上原価が対前年度比(+) 11.0% 、人件費、経費を合わせた営業費が対前年度比で(+) 2.2% 上昇したことによる。

2 卸売・小売業、飲食店

《売上高は2年連続減少し、営業利益は減少に転じた》

平成10年度の1企業当たりの売上高は、1779万円に対前年度比(-) 8.0% と昨年度に引き続き低下し、営業利益は、318万円に対前年度比(-) 9.6% と低下に

転じた。

これは、売上原価が対前年度比(-) 9.5% 、人件費と経費を合わせた営業費が対前年度比で(-) 1.7% といずれも低下したものの、売上高の落ち込みがこれを上回ったことによる。

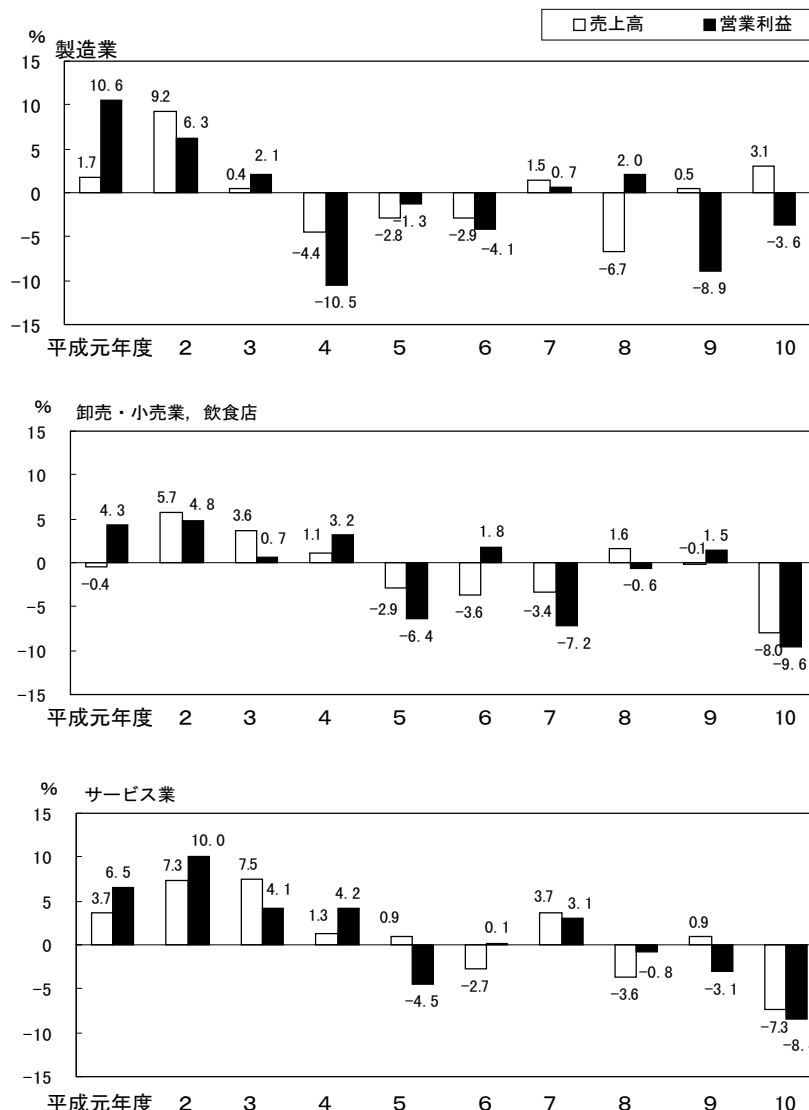
3 サービス業

《売上高は減少に転じ、営業利益は3年連続減少》

平成10年度の1企業当たりの売上高は、686万円に対前年度比(-) 7.3% と低下に転じ、営業利益は、300万円に対前年度比(-) 8.4% と3年連続の低下となった。

これは、売上原価が対前年度比(-) 8.3% と低下に転じ、人件費、経費を合わせた営業費も対前年度比で(-) 5.7% と低下に転じたが、売上高の落ち込みがこれを上回ったことによる。

産業大分類、売上高・営業利益の対前年度比の推移



資料：総務庁統計局